

# 十勝毎日新聞

発行所  
十勝毎日新聞社  
〒080 帯広市東1条南8丁目  
電話=編集②2121、広告  
③2323、総務・販売④2222  
©十勝毎日新聞社 1988

## 十勝と宇宙開発

国際シンポジウム出席者座談会

**第三部**  
**〈出席者〉**  
航空宇宙技術研究所宇宙  
研究グループ主任研究官  
新田 慶治氏  
新潟大学助教授  
高橋 敬雄氏  
アメリカ航空宇宙局 (N  
ASA) エイムズ研究所  
ロバート・  
マッケロイ氏  
司 会 小野寺 裕  
(本社政経部)

打ち上げだけでは、は六、七の宇宙センターがあり、うち三十年以内に作られる比較的新しい施設はヒューマンターと関連企業の張り付きセンター、フロリダのケネディスペースセンター、ゴダードスペースセンターの三つ。

マッケロイ氏 NASAに、宇宙基地誘致にしても、打ち上げ施設だけでは地場の効果は薄いと考えるべきで、大学の誘致などを通してレベルアップを図る必要がある。

効果については評価が非常に難しい。例えばケネディスペースセンターの場合、以前軍隊の発射台があった所に建設されたが、当初十年間はその地方に商業が発達したものの、その後維持できなかった。地域を支える工業もなく、NASAの出現は地域発展につながらなかった。北海道の宇宙基地誘致にしても、打ち上げ施設だけでは地場の効果は薄いと考えるべきで、大学の誘致などを通してレベルアップを図る必要がある。

### 大学など誘致を パイオニア精神で 長期的視野持て

マッケロイ氏  
新田氏  
高橋氏

神を養育し、文化的、生活環境、長期的視点を取り組むことが必要だ。境界の面でもより一層魅力的な地域になる努力を続けてほしい。

高橋氏 日本人のパイオニア精神はアメリカ人のそれと異質。またアメリカ人が長期的視野を持っているのには、基盤がなれば単なる打ち上げ場所に終わってしまう。宇宙開発は二年ごとになるという性質のものではなく、不安定要素も逆長期的視野で開発を進めていくことが重要だ。北海道、十勝が宇宙に可能性をみるなら、現在まで考えられな

かあらゆる経済活動を発展させる要素になりついでとまで、宙での農業は、高度な生産性をもち植物を育種し、小さな



右からロバート・マッケロイ氏、高橋敬雄氏、新田慶治氏

十分地元にも還元

高橋氏 確かに我々の研究は、こと農業に関しては、これまで農学者がやらなかった分野に及んでいる。今まで植物を育てることが出来なかった場所を栽培する訳だから、それらの研究は十分に還元できると思う。

新田氏 北海道の人が宇宙活動にかかわることを好まれるなら、より先進的な科学にも興味を持っていくことが大切。それが宇宙での活動を地上に結びつける接点になっていく気がする。

司会 宇宙開発は地上での我々の生活と無縁なものではなく、宇宙からの応用が広い面が可能というところですね。今日は貴重な意見、どうもありがとうございました。

(おわり)

右からロバート・マッケロイ氏、高橋敬雄氏、新田慶治氏

マッケロイ氏 宇宙には抑空間で効率的に育てることが、物理の排他(せつ)物の処上であるのとは訳が違います。宇宙での研究を進めているが、地上でやるのとは訳が違います。宇宙での研究は、農業はかり